

第 100 回定時株主総会質疑応答

- 質問者：10 名（事前質問 1 名、定時株主総会当日における質疑応答 9 名）
- 質問数：12 問（事前質問 2 問、定時株主総会当日における質疑応答 10 問）

【事前質問】

質問 1

中期経営計画未達の原因分析と反省及び今後の対策について。

回答 1 【議長の指名により企画部門を担当する伊藤常務より回答】

中期経営計画における計画値との差異については、コストの増加が主な原因であり、大きな要因は 2 つある。

1 つ目の要因は、2020 年以降、SPAT4 の売上が大幅に増加したことにより関連システムへの負荷が著しく増加したことを受け、安心安全な SPAT4 システムの更新を実施したことによる減価償却費および保守費用等のランニングコストの増加である。

2 つ目の要因は、大井競馬場馬場の砂の入れ替えによるものである。当初は国産の砂を予定していたが、2023 年以降、排水性の向上、馬や騎手の安全性向上を目的として、より良質なオーストラリア産の砂に変更したためである。

コスト管理については、セグメントごとに厳格な管理を行っており、結果的にコストの増加となったが、事業継続のために必要な投資であったという点についてはご理解をいただきたい。

今期業績予想について、既存事業の増収策や効率化を図り、目標達成に向けて取り組んでいく。

また、現在作成中の次期中期経営計画においては、KPI 採用指標等についても引き続き検討を進める。

質問 2
取締役の自社株保有状況及び業績連動報酬について。
回答 2 【議長の指名により総務部門を担当する高倉常務より回答】
経営陣の自社株保有は、株価を重要視した経営判断を行うための効果的な動機付けであり、株主の皆様との視点の一致と利益の共有の観点から、とても大切であると考えている。 経営陣の自社株保有数が少ないために、経営陣が企業価値向上への意欲が低い、会社成長を見込んでいないという見え方をされてしまうという懸念があることは承知しているが、当社経営陣は常に企業価値向上を意識して会社経営にあたっている。 今後の取り組みとして、中長期的な企業価値向上と株主の皆様との利益を共有するという観点から、昨年より導入している株式報酬制度の報酬全体に占める割合を増やす等、制度設計も含めて検討していく。 業績連動報酬については、長期経営ビジョン 2035 に掲げた目標を確実にクリアするため、各年度の達成度や定量的 KPI 等による評価を行う必要性を認識している。今後も、長期的な視点と短期的な業績評価が両立できる報酬制度の導入について、検討していく。

【定時株主総会当日における質疑応答】

質問 1
大井競馬場の内馬場の設備を充実させ活用すべきではないか。
回答 1 【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
内馬場の活用として、今期で 7 期目となるイルミネーションを実施している。競馬開催日には、レース間演出としても活用しており、かつてのような馬券販売や飲食店営業はないものの、現在も有効に活用している。

質問 2
株主優待について、大井競馬に関する優待を検討できないのか。
回答 2【議長の指名により総務部門を担当する高倉常務より回答】
当社施設を知っていただくため、大井競馬場と東京サマーランドを株主優待の対象としている。従前は大井競馬場で株主様を対象としたバックヤードツアーも実施していたが、コロナ禍以降一旦中止しており、今後の再開については検討をさせていただく。

質問 3
サステナビリティの一環として、拉致問題を含めた人権問題に関する寄付や啓発活動を行ってはどうか。
回答 3【議長の指名により総務部門を担当する高倉常務より回答】
拉致問題は重要な人権問題と受け止めているが、大井競馬場で特定の問題に対しての支援等の活動を行うことは、主催者である特別区競馬組合様との協議が必要と考えている。ご理解をいただきたい。

質問 4
利益剰余金 815 億円のうち、手持ちの現預金はどの程度なのか、またその使い道について。
回答 4【議長の指名により財務部門を担当する伊藤常務より回答】
現預金については現在 160 億円ほど保有しており、キャッシュアロケーションについては、成長基盤・事業基盤への投資、株主の皆様への還元等との総合的なバランスを踏まえて実施している。

質問 5
SPAT 4 イメージキャラクターの選定基準およびをノベルティグッズや株主優待へ活用について。
回答 5【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
SPAT4 は南関東競馬の 4 主催者と共同で運用しており、イメージキャラクターの選定についても協議のうえ行っている。また、ノベルティグッズの作成等については、商標等の関係で一部制限があることをご理解いただきたい。

質問 6
企業価値向上に向けてどのような取り組みに注力していくのか、また今後の抱負等について多羅尾社長自らの意見を聞かせて欲しい。
回答 6【多羅尾社長より回答】
当社の成長可能性については、大井競馬の発展が大きく関わるものと考えている。当社として対処すべき重要課題は大井競馬場の再整備であり、更新の時期を迎えている厩舎をはじめ、厩舎の更新と強い馬づくりに向けたトレーニングセンターの新設が重要である。また、当社グループ全体として持続的に成長し、株価上昇にも繋げ、企業価値向上を図ることにより、株主の皆様の期待に応えてまいりたい。

質問 7
汐留の場外馬券発売所が閑散としているため、閉鎖を検討すべきではないか。また、代わりの場外馬券発売所を渋谷や池袋等に作ってほしい。
回答 7【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
場外馬券発売所の廃止等については主催者である特別区競馬組合様が決定するもので、当社がお答えできる立場ではないことをご理解いただきたい。

質問 8
大井競馬場の入場者数が減少している中、スタンド改修に投資する必要があるのか。
回答 8【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
勝馬投票券の購入スタイルの変化に伴う大井競馬場の入場者数の減少を踏まえると、新たにスタンドを建てるということは考えにくい。 しかしながら、現在稼働しているスタンドの維持管理、お客様へのサービスの向上についてはしっかりと実施していく。

質問 9
3歳ダート三冠競走を盛り上げるため、どのように取り組んでいくか。
回答 9【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
3歳ダート三冠競走については、全て大井競馬場で行われているが、地方所属馬の出走頭数が少ないのが現状である。当社としては、トレーニングセンターの新設により、地方競馬が中央競馬の馬に勝てるような強い馬づくりを実現する環境を整えていくことが重要であると考えている。

質問 10
強い馬づくりに向けて、ハード面ではなく、優れた血統を取り入れる等の戦略的な取り組みがあれば教えて欲しい。
回答 10【議長の指名により公営競技事業部門を担当する山手常務より回答】
当社は大井競馬の施設の充実を行う会社であり、競走馬の血統や育成等に関するご回答は難しい。今後、厩舎移転やトレーニングセンターの新設により、強い馬づくりに寄与していきたいと考えている。